

# 実績報告書

届出者	住所	尼崎市今福1丁目2番2号	氏名	東洋リビングサービス株式会社 代表取締役 井出本 英治
特定事業者の主たる業種		78洗濯・理容・美容・浴場業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		リネンサプライ事業 1、様々な繊維製品を貸与して定期的に洗濯した清潔なものと交換するリネンサプライ業 2、無塵・無菌服のクリーニングと滅菌 3、上記アイテムの販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2019年	4月	1日	～	2022年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2018 )年度	前年度( 2019 )年度
温室効果ガス総排出量	3,590 t-CO <sub>2</sub>	3,495 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,717 t-CO <sub>2</sub>	3,615 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2021 年度)	第1年度 (2019 年度)	第2年度 (2020 年度)	第3年度 (2021 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	3.0 %	2.5 %	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0 %	2.6 %	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 生産重量 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

生産に係る機械の運転時間を短縮したことにより生産効率化が図れ、原単位での削減が2.5%達成できた
--

(2) 推進体制

エネルギー管理統括者：尼崎事業所 製造部課長 エネルギー管理企画推進者：泉大津事業所 所長  係長会議(2回/月) 経営会議(1回/週) 生産技術会(1回/月) でエネルギー使用状況、原単位推移をチェック。省エネ活動の進捗やその効果を継続確認していく。
---

## 実績報告書

届出者	住所	東京都大田区新蒲田1丁目7番4号	氏名	株式会社 東横イン 代表執行役社長 黒田 麻衣子
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ビジネスホテルの運営 大阪府には27店舗（2020年3月末時点） 前年度より3店舗開業		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2019年	4月	1日	～	2022年	3月31日

#### (2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2018 )年度	前年度( 2019 )年度
温室効果ガス総排出量	9,857 t-CO <sub>2</sub>	10,157 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	10,466 t-CO <sub>2</sub>	10,833 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2021年度)	第1年度 (2019年度)	第2年度 (2020年度)	第3年度 (2021年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	2.8%	-4.8%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		0.9%	-5.3%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 客室稼働室数 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
ホテルについては、稼働客室数がエネルギー消費量に大きく影響する為、稼働客室数と連動して総排出量も増加する。その為、稼働客室数1000室単位を原単位とした原単位を採用。 関西事務室については、ホテル以外の事業所における原単位の設定には、原油換算値を事業所の床面積(561m <sup>2</sup> )で割った値とする。	

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

基準年度以降、新たに3店舗オープンした影響により、温室効果ガス総排出量は増加となりました。 原単位の増加となった原因は、原単位に影響がある客室稼働率率がかかなり減少した事が影響しています。 今後は稼働率を上げることやエアコンの順次取替え、及び各店舗が省エネ意識をもって取り組むことが重要と考えます。
---

#### (2) 推進体制

各店舗にて削減対策を検討し、運用面での対応を強化する。 省エネエアコンに取り替える為の計画を立て、順次進める。 また、お客様にはエアコンの設定温度を下げるよう、協力のお願いをする。
--

## 実績報告書

届出者	住所	東京都渋谷区神南 1-10-1	氏名	株式会社ドトールコーヒー 代表取締役社長 星野 正則
特定事業者の主たる業種		76飲食店		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		コーヒー製造業と販売を基本とし、主たる事業として日本全国に、喫茶FCチェーンを1,276店舗出店しています。その内、大阪府内には81店舗を出店しています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2019 年	4 月	1 日	～	2022 年 3 月 31 日 (3年間)	
(2) 前年度における温室効果ガス総排出量					
区分	基準年度( 2018 )年度	前年度( 2019 )年度			
温室効果ガス総排出量	3,467 t-CO <sub>2</sub>	3,858 t-CO <sub>2</sub>			
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,100 t-CO <sub>2</sub>	4,551 t-CO <sub>2</sub>			
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>				
(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況					
区分		削減目標 (2021 年度)	第1年度 (2019 年度)	第2年度 (2020 年度)	第3年度 (2021 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 3.1 %	-11.3 %	%	%
		削減率(原単位ベース) %	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0 %	-11.0 %	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%
温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )				
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)					

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

2019年度においては省エネ新規3店舗オープン、省エネ改装を7店舗実施、未改装2店舗閉店により温室効果ガスの排出量を削減出来ました
---

(2) 推進体制

別添のとおり
--------

# 実績報告書

届出者	住所	東京都渋谷区道玄坂1-21-1 渋谷ソラスタ21階	氏名	株式会社トリドールホールディングス 代表取締役 栗田 貴也
特定事業者の主たる業種		76飲食店		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		セルフサービスの讃岐うどん専門店「丸亀製麺」を中心に、大阪市内で84店舗の飲食店を運営しています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間				
2019年	4月	1日	～	2022年 3月 31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2018)年度	前年度(2019)年度
温室効果ガス総排出量	8,671 t-CO <sub>2</sub>	8,902 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,943 t-CO <sub>2</sub>	10,183 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2021年度)	第1年度 (2019年度)	第2年度 (2020年度)	第3年度 (2021年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	削減率(原単位ベース)	3.0%	3.1%	%
削減率(平準化補正ベース)		3.0%	3.4%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(売上高)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>新型コロナウイルスの感染拡大での売上減少が発生する中、店舗の努力により、目標をクリアしました。</p>
--

(2) 推進体制

<p>社長の直下に、関係部署を集めた環境委員会を設置し、最重要課題のひとつとして環境課題に取り組んでいます。取組の一環として、環境マネジメントシステムのエコアクション21の認証を取得いたしました。</p>
--